

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		障害福祉サービス事業所カーサ岩槻 放課後等デイサービス				公表日	2026年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動スペースと静養スペースを分け、動線に配慮した配置にしています。	利用状況に応じたスペースの柔軟な見直し。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童の人数や特性に合わせ、基準を満たす人数の職員を日々配置しています。	突発的な欠員時の体制強化	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚支援を取り入れ、見通しを持ちやすい環境づくりを行っています。	個々の特性に応じた支援方法の更なる工夫。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃と換気を徹底し、清潔で心地よい空間を維持しています。	活動内容に応じた環境設定の見直し。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		定期的な会議で児童の情報を共有し、特性に応じた支援を行っています。	個別対応スペースの確保と活用方法の整理。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		目標共有と振り返りを定期実施	全員参加の徹底	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケートを活用	改善内容の見える化	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議で意見収集	反映のスピード向上	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	内部評価で補完	外部評価の導入検討	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修機会を確保	実践への落とし込み	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援内容を明文化	更新頻度の向上	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		多面的アセスメント実施	客観性の強化	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		チームで計画作成	意見の偏り防止	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画の共有徹底	理解度の差の解消	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日常観察を重視	ツール活用の強化	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿った設計	支援内容の具体化	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで立案	役割分担の明確化	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		多様な活動導入	マンネリ化防止
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別と集団の併用	バランス調整
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		事前打合せ実施	短時間での質向上
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返り共有	記録との連動
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録の徹底	簡潔で質の高い記録
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期モニタリング	迅速な見直し
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		複数活動の組合せ	偏りの防止
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		選択機会の提供	選択肢の拡充
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者が会議参加	情報共有の深度向上
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関連携	連携頻度の強化
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と密に連絡	緊急時対応の統一
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要時に情報確認	事前連携の強化
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行時に情報提供	早期準備
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		外部助言の活用	継続的關係構築
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		機会があれば交流	定期的な交流機会
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会へ参加	発信力の強化
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日常的に共有	記録化の徹底
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		個別相談対応	体系的な家族支援
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		丁寧な説明	理解度の確認
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		意向確認を重視	子どもの意思反映強化
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画説明と同意取得	内容理解の補足

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時相談対応	専門的助言の充実
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		交流機会の提供	参加率向上
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応体制整備	再発防止の共有
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		連絡帳アプリによる通信活用	発信頻度の向上
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		管理ルール徹底	意識の継続強化
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		配慮した伝達	個別対応の精度
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域との関わり	継続的な交流
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアル整備	実践訓練の質向上
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期訓練実施	想定が多様化
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前情報確認	更新漏れ防止
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師指示に基づく対応	理解統一
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づく運営	点検頻度の強化
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		家族へ周知	理解の個人差対応
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット共有	分析の深度
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修実施	日常への落とし込み
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		事前説明と同意	記録の具体性向上	